

個別事業(取組)評価				
事業No.	32	施策の柱への位置付け	柱④ 心の教育改革	
事業名称	学校図書館活動推進事業		担当課	小中学校課
			当初予算額(千円)	6,598
			修正後予算額(千円)	118,135
			決算額(千円)	5,729

		当初計画	年度末点検・評価
①	現状(課題)とその要因	【現状】 読書好きな小・中学生の割合は全国平均以上であるが、家庭や図書館で全く読書をしない中学生が約38%おり、学校で実施している全校一斉の読書活動が家庭や図書館での読書活動に十分活かされていない。 (平成21年度「全国学力・学習状況調査」)	ア 正確に把握していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) 本年度の「全国学力・学習状況調査」においても、昨年度と同様の傾向であることが判断できた。 ・「読書は好きですか」 高知県肯定群 小74.7%(全国73.0%) 中71.4%(全国68.8%) ・家庭や図書館で全く読書をしない中学生 約36%
		【要因】 ◆ 図書館担当や学校図書館活動についての研修が不十分であること ◆ 図書資料を活用した各教科等での授業の工夫がされていないこと	イ 十分に特定していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) 平成22年度に行われた高知県学校図書館活動推進事業連絡協議会のような研修会は、平成21年度まではあまり行われていない。
②	目標(Outcome)	◆ 学校図書館活動の活性化を図り、児童生徒の読書習慣を確立することにより、豊かな感性や思考力・表現力を育成する。 ① 各推進校の児童生徒一人当たりの貸出冊数の向上 ② 小中学校での朝読書や一斉読書の推進 実施率: 95%以上 ③ 高知県必読図書リストブックの利活用の推進	ウ 達成可能で具体的な目標を設定していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) 児童生徒の読書活動を拡充するうえで、平成22年度に達成すべき目標を設定した。
		【検証(比較)方法】 ① 推進校の授業公開の実施状況 (検証時期: 12月・3月) ② 平成22年度高知県学校図書館活動推進事業の現状に関する調査 (検証時期: 8月・12月) ・一人当たりの貸出冊数・朝読書や一斉読書の状況・授業での活用状況・学校図書標準の達成率 ③ 学校図書館の現状に関する調査(文科省) ・朝読書や一斉読書の状況・学校図書標準の達成率	エ 目標は達成されたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) ① 推進校での一人当たりの貸出冊数対前年度比向上率 90% 【参考】 ・推進校での朝読書や一斉読書の実施率 100% ・推進校訪問時の学校図書館を絡めた授業の公開 100% ② 小中学校での朝読書や一斉読書の推進は95%以上の実施率を達成した。 ・平成22年度学校図書館の現状に関する調査 96.8% 【参考】 ・推進校での読書活動の活性化や学校図書館や図書資料を活用した授業研究は拡充している。 ・推進校での学校図書館や図書資料を活用した授業の実施率 100% ③ 「きつとある キミの心に ひびく本」(高知県必読図書リストブック)の利活用についてはある程度進んだが、次年度以降更に推進する必要がある。
③	実施内容(Input・Output)	◆ 学校図書館司書教諭を加配した学校図書館活動推進校において、学校図書館活動を中核とした学校図書館教育を充実し、その成果を普及する。 ① 高知県学校図書館活動ガイドブックの作成と小中学校への配付及びその活用促進 ② 高知県必読図書リストブックの作成と公立校の児童生徒への配付及びその活用促進 ③ 学校図書館教育推進教諭が中心になって学校図書館活動の充実と情報発信 ④ 児童生徒の読書量や学校図書館を活用した授業時数を把握するなど定量的なデータの収集・分析による取組の改善 ⑤ 学校図書館に関わる公開授業研究やHPでの学校図書館活動に関する実践事例等の紹介による取組公開	オ 計画通り実施されたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) ① 高知県学校図書館活動ガイドブックを作成し、全小中学校へ配付(9月) ② 「きつとある キミの心に ひびく本」(高知県必読図書リストブック)を作成し、全小中学生に配付(11月) ③ 高知県学校図書館活動推進事業連絡協議会を開催し、ガイドブックやリストブックの活用について、グループ協議を行い活用について検討 ・第1回協議会8月実施: 100名参加・第2回協議会1月実施70名参加 ・推進教諭が、地域の学校図書館担当者に情報提供を行ったり、授業活用に際して県立図書館と連携したりするなど、推進校の学校図書館活動の中心となり推進した。 ④ 定量的なデータの収集等による取組の改善を図った。 ・推進校での各教科等での図書資料を活用した授業の実施率 100% ・推進校の学校図書館全体計画作成率 100% (各推進校の実態調査から) ⑤ 佐川中学校や宿毛小学校において、公開授業研究を実施した。また、推進校の授業実践について、メールマガジンによる情報発信を行った。

総合評価と今後の方向	目標達成度 B 「No」を選択した項目 <input type="checkbox"/>	【今後の方向】 ◆ 学校図書館担当者スキルアップ講座や学校図書館活動推進事業連絡協議会において「高知県学校図書館活動ガイドブック」や「きつとあるキミの心にひびく本」(お薦め図書リスト)の活用方法を検討協議し、各校の学校図書館活動の活性化を図る。 ◆ 学校図書館担当者スキルアップ講座や学校図書館活動推進事業連絡協議会において、推進校の実践や県外先進地の実践事例を紹介し、グループ協議等の演習を通じて各校の学校図書館担当者に対する研修を充実させ、各学校図書館への支援を拡大する。
	【総合評価】 「読書が好き」と感じている児童生徒は、全国平均より高い状況にあり、読書好きの子どもたちが多い。また、学校図書館活動推進校や学校図書館支援員の配置されている学校では確実に貸出冊数が増加し、授業での図書資料の活用も見られ、読書活動は活性化している。しかし、推進校の取組や成果が県内の各校学校図書館の活性化には十分つながっていない。	